ストリップ

カブリツキ

隔月連載

有賀美雪の楽屋育ちのひとりごと 14

「うそつき少女〝白川美雪〟のこと」

日差しが春の訪れを告げる頃となりましたが、みなさん、毎日をいかがお過ごしですか。

えー、こんにちは。有賀美雪です。前回のコラムを読んだ何人もの方から、「あの話は本当ですか」というご質問をちょうだいしたのですが、もちろんイエス！ですよ。

そして今回は、私の初舞台についてお話ししようと思います。そんな過去があり、今の有賀美雪というストリッパーが存在していることを理解していただければとっても幸いです。

私が初めて舞台に立った劇場は、名前は明かせませんが、関東地方のある劇場です。そこには当時、私の母を知っている人がたくさんいて、そんな方々からよく「いやあ、あのときのチビがこんなに大きくなって。大人になったねえ」とか、「あんときのおませな子供がねえ」とか、毎日一度は子供の頃の私と当時の私を見比べられたのでした。

私はそのたびにドキドキ。すぐにその場から立ち去りたいような思いに駆られたものです。また、そんなところにいる自分が、なんだか罪人のように感じられました。デビューは母には秘密にしていました。だから今さら泣きながら母のもとには帰れません。親から離れてやってきたこの世界に、とても不安を感じました。

でも、ここで本当にストリップ界のマナーや厳しさを教えてもらったのではないかと今は思う。初デビューでは、初日の2回目からベッド着を着させてもらい、「行けっ」と舞台袖からマジで押されてステージに出ました。

先に出ているお姐さんたちが声を上げて、「ほら、もっと乳を出せ」とか「もっとムードを」とか。まるで部活の特訓のようでしたよ。それを観たお客さんはどう感じたかなあ。

そしてその一年後くらいには、〝白川美雪〟という芸名で、みなさんのいる地区の劇場にも出演したんですよ。でも、その頃を覚えているのは、ごく数人と、ご迷惑以外の何物でもない被害を受けた劇場さんと、そしてこの大うそつきの私くらいかな（それでも現在お付き合いをしてくださっている広い心の持ち主の劇場関係の方々には本当に感謝し、そして反省しています）。

ところで、どうして白川美雪という名があったのに、今、〝有賀美雪〟を名乗っていると思いますか。変だよね。名前が違うなんて。どちらも間違いなく私なのに。

それは白川美雪だった頃の私は、17歳の児童だったからです。

もちろん、警察に摘発されました。私は健全な社会人に更生するよう20歳までの保護観察処分となりました。そして、またも今では、健全なストリッパーです。

2年半は水の泡になってしまって、保護士さんは気を落とすかもしれないけど、これが私の育ってきた水です。違う水では生きていけないんです。違う仕事に就けば〝前科者〟と呼ばれても、この世界